

Introduce Japan in Easy English

—English Once More! II—

**Yukari Aiko
Yuka Ikeda**

Asahi Press

音声ファイルの無料ダウンロード



<http://text.asahipress.com/free/english>

この教科書の音声データは、上記アドレスから
無料でダウンロード出来ます。

Introduce Japan in Easy English —English Once More! II—

Copyright © 2016 by Asahi Press

All rights reserved. No part of this book may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording or by any information storage and retrieval system, without permission in writing from authors and the publisher.

Photographs by Yuka Ikeda and iStockphoto

Illustrations by Yasuco Sudaka

はじめに

本書は、初級英語教材 *English Once More!* の続編です。*English Once More!* では、イギリスに留学中の日本人学生ヒロが様々な経験を通して英語を学んでいくというストーリー仕立てにしました。本書では、イギリスでお世話になったホストファミリーの Jane & David が今度は日本を訪れ、ヒロが案内役として東京や京都と一緒に旅行するという設定です。

各单元では、日本の観光地や文化・風習などを平易な英語で外国人に紹介する表現を学ぶと同時に、基本的な文法事項のうち *English Once More!* では扱わなかった事項（文型、準動詞、話法、関係詞、仮定法など）が、実際のコミュニケーションの文脈で確認できるよう工夫がなされています。2020年に東京オリンピックを控え、外国人旅行者も年々増加する中、すぐに使える表現や話題になりそうなトピックも盛り込みました。

以下に、本書の特徴と使い方をまとめます。

● 本書の特徴

1. 基礎文法の習得と、実際のコミュニケーションで遭遇する場面を、シラバス（各単元のテーマ）の2つの柱としています。
2. 文法解説は詳細ですが、平易な表現で語りかける口調になっているので、自学自習用教材としても使用できます。
3. 英語の基礎的なレベルの習得に標準を合わせていますが、学習者が年齢相応の英語の表現や知識を身につけることができるよう配慮しました。
4. より実践的な英語を身につける目的で、Reading（読む）、Listening（聴く）、Writing（書く）、Speaking（話す）の4技能をバランスよく伸ばしていけるよう工夫してあります。
5. 音声については、実際のコミュニケーションや検定試験のリスニング問題で役立つよう、アメリカ英語とイギリス英語の両方を採用しました。登場人物とそれぞれの音声のアクセントは以下のとおりです。
アメリカ英語：Hiro、Naoko（ヒロの母親）
イギリス英語：Jane、David、Mel（Jane & David の長女、現在京都で英語を教えている）

● 本書の使い方

1. 読んでみよう!

- (1) 指導者に従って、音読を2~3回繰り返します。
- (2) 各自黙読し、大体の内容を把握します。
- (3) 語彙等の解説を見ながら日本語に訳し、細かい点を確認していきます。

2. 聴いてみよう!

読解による内容把握ができれば、耳で聞いて内容を再確認します。

- (4) まずテキストに頼らずに、全文を通して聞きます。一度で聞き取れない場合は2~3回音声を繰り返し聴きます。
- (5) 続いて設問を聞き、選択肢から適切な答を選びます。
- (6) 答え合わせをします。

☞「読んでみよう!」「聴いてみよう!」では、学習者は自分の弱点に気づくことが大切です。例えば、語彙力の不足、リスニング能力の不足、それぞれの単語の意味は理解できても文章全体が理解できない(読解力の不足)といった問題点です。

3. 英語の学習を効率的に進めていく上で、特に基礎力をつける段階では、文法の学習を無視することはできません。指導者から補足説明を聞きながら文法解説を読み、「確かめよう!」で自分の理解度を診断します。

4. 最後の「表現してみよう!」では、それまでに学習したことをもとに、自分のことについて語ったり、書いたり、*ロールプレイをしたりすることで、英語を発信していく能力を身につけます。

*ロールプレイ:本文の会話にならって、それぞれ役割を決めて演じること。

最後に、本書の出版にあたりましては、朝日出版社社長 原雅久氏、第一編集部 日比野忠氏に多大なるご尽力をいただきました。また、Mary Tadokoro氏、Colin Lancour氏には英文校閲でご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

2016年1月

愛甲ゆかり
池田 有花

Contents

はじめに

学習を始める前に: 語、句、節

Unit 1	空港で	2
	文型①(第1文型・第2文型・第3文型)	
Unit 2	マンションに到着	10
	文型②(第4文型・第5文型/自動詞と他動詞/ There + be 動詞 + 名詞)	
Unit 3	お客様を迎える	20
	不定詞①、動名詞(不定詞の名詞的用法/ It is ... to ~ 構文/ 疑問詞 + 不定詞/不定詞と動名詞の違い)	
Unit 4	デバ地下でお買い物	30
	不定詞②(形容詞的用法/副詞的用法/ 様々な表現)	
Unit 5	お花見	38
	分詞(名詞を修飾/文中で補語/ 様々な表現/分詞構文)	
Unit 6	浅草へ行こう!	50
	接続詞①(等位接続詞)	
Unit 7	秋葉原を散策	58
	接続詞②(従属接続詞/名詞節を導くもの/ 副詞節を導くもの)	
Unit 8	平和への祈り	68
	過去完了形(現在完了形と過去完了形/ 過去完了形の用法)	

Unit 9 京都旅行：新幹線の旅 78
 話法①（直接話法と間接話法／時制の一致／間接話法での伝達動詞、
 代名詞や副詞の表し方）

Unit 10 茶道初体験 88
 話法②（伝達内容が疑問文の場合／伝達内容が命令文などの場合）

Unit 11 京都の思い出 98
 関係代名詞①（主格の関係代名詞／所有格の関係代名詞／
 目的格の関係代名詞）

Unit 12 日本滞在最後の日：築地市場～上野公園 108
 関係代名詞②（that が好まれる場合／関係代名詞と前置詞／
 関係代名詞 what）

Unit 13 日本の事象を英語で説明 116
 関係副詞（関係副詞の種類／関係詞の2つの用法）

Unit 14 最後の晚餐 126
 仮定法①（仮定法過去／I wish + 仮定法／実現性の低い未来の仮定）

Unit 15 別れの時 134
 仮定法②（仮定法過去完了／as if + 仮定法／
 if～を使わない仮定法の表現）

付録 **不規則動詞の活用変化表** 143

● 語

語とは英文を構成する上での最小の単位です。一般的に、その意味や働きから以下のような8つのグループに分けられ、**8品詞**と呼ばれます。

名詞	<p>物事や現象、場所や人物などの名前を表す。文中で主語 (S)・補語 (C)・目的語 (O) になる。</p> <p>book, class, bread, love, Tokyo, Emily など</p> <p>(1) Hiro is a student. ヒロは学生です。 <small>S C</small></p> <p>(2) He studies English. 彼は英語を勉強しています。 <small>O</small></p>
代名詞	<p>名詞の代わりをし、すでに話題にのぼった人や物を言い換える語。人称代名詞は働きに応じて形が変化する（例：I・my・me）。</p> <p>I, your, him, herself, it, this, those, each, something, what など</p>
形容詞	<p>名詞を修飾したり、文中で補語 (C) となって主語 (S) や目的語 (O) の状態を説明したりする語。</p> <p>beautiful, red, Japanese, many, two, interesting, tired など</p> <p>(3) Craig has two Japanese cars. <small>[それぞれ名詞 car を修飾]</small> クレイグは2台の日本車を持っている。</p> <p>(4) The baby looks sleepy. その赤ちゃんは眠たそうです。 <small>C [主語 The baby の状態を説明]</small></p> <p>(5) His disease made things more difficult. <small>C [目的語 things の状態を説明]</small> 彼の病気が事態をさらに難しくした。</p>
副詞	<p>動詞や形容詞、副詞、文全体を修飾する語。</p> <p>hard, quickly, very, unfortunately, never, here, tomorrow, when など</p> <p>(6) He studies very hard. <small>[副詞 hard を修飾] [動詞 studies を修飾]</small> 彼はとても熱心に勉強する。</p> <p>(7) Luckily, nobody was injured in the accident. <small>[文全体を修飾]</small> 幸運なことに、その事故で誰もケガをしなかった。</p>

動詞	<p>主語 (S) の状態や動作を表す語。 be, go, live, keep, have, get, see, stay, make, tell, show, work など</p> <p>(8) I am Japanese. 私は日本人です。</p> <p>(9) I visited England last year. 昨年、イギリスを訪れました。</p>
前置詞	<p>名詞・代名詞・動名詞の前に置かれて、形容詞句・副詞句を作る語。 at, on, in, to, from, for, under, over, with など</p> <p>(10) Bring me the dictionary on the desk. ↑ 形容詞句 [名詞 dictionary を修飾] 机の上の辞書を持ってきて。</p> <p>(11) I'll visit Kyoto in April. ↑ 副詞句 [動詞 visit を修飾] 4月に京都を訪れます。</p>
接続詞	<p>語と語、句と句、節と節を結び付ける語。 and, but, when, if, because, though など</p> <p>(12) I met Carla and Martha on the train. 語 語 電車でカーラとマーサに会った。</p> <p>(13) Did you come by bus or by train? 句 句 バスで来たの、それとも電車で行ったの?</p> <p>(14) Give me a call when you have time. 節 節 時間がある時に電話してね。</p>
間投詞	<p>驚きや喜び、悲しみや怒りなどの強い感情を、他の語とは独立して表現する語。 Ah! (ああ)、Oh! (おお)、Good heavens! (おやまあ)、Gosh! (おや、えっ)、Really? (本当?)、Uh-huh (うん) /ʌhɑ:/[アハ]、Well (ええと)、Wow! (わあ) など。</p> <p>(15) Oh, dear! What happened to you? あらまあ、あなたどうしたの。</p> <p>(16) Ah, this is it. ああ、これだ。</p> <p>(17) Well done! Your speech was marvelous. よくやった。君のスピーチは素晴らしかったよ。</p>

●句

2つ以上の語がまとまってある意味を形成し、主語 (S) + 動詞 (V) を含まない

ものを句と呼びます。名詞・形容詞・副詞という品詞の働きを持ち、それぞれ、名詞句・形容詞句・副詞句と呼ばれます。

(18) Ben likes **playing baseball**.

S V O (名詞句)
ベンは野球をするのが好きだ。

playing baseball (野球をすること) は、文中で目的語になる名詞の働きをしています。

(19) The smartphone **on the table** is mine.

(名詞) (形容詞句)

↑
テーブルの上のスマートフォンは私のものです。

on the table (机の上の) という語句が the smartphone (スマートフォン) という名詞を修飾する形容詞の働きをしています。

(20) Please send this **by airmail**.

(動詞) (副詞句)

↑
これを航空便で送ってください。

by airmail (航空郵便で) という語句が send (～を送る) という動詞を修飾する副詞の働きをしています。

●節

2つ以上の語がまとまってある意味を形成するもののうち、主語 (S) + 動詞 (V) を含んだものは節と呼ばれます。名詞・形容詞・副詞の働きを持ち、それぞれ、名詞節、形容詞節、副詞節と呼ばれます。

(21) I hope **that you have a safe journey**.

(S) (V)

安全なご旅行になりますことを願っております。

接続詞 that 以下が名詞の働きを持ち、動詞 hope の目的語として名詞節になっています。(接続詞 that については Unit 7 を参照)

(22) I have a friend **who works in a travel agency**.

(S) (V)

↑
旅行代理店に勤めている友達があります。

関係代名詞 who 以下が、a friend (友達) という名詞を修飾する形容詞節となっています。(関係代名詞 who については Unit 11 を参照)

(23) I spoke to Diane **because she didn't look well.**

↑ (S) (V)

具合が悪そうだったので、ダイアンに声をかけました。

接続詞 because 以下が、I spoke to Diane (ダイアンに話しかけた) という主節の理由を表す副詞節となっています。(接続詞 because については Unit 7 を参照)

登場人物紹介



Hiro
(東京に住む大学生)



Naoko
(Hiroの母)



Ken
(Hiroの父)



Yuki
(Hiroの妹)



Jane & David
(Hiroが以前、イギリスにホームステイした時のホストファミリー)



Mel
(Jane & Davidの長女、京都で英語を教えている)

Introduce Japan in Easy English

Unit 1 空港で ❖❖❖ 文型① (第1文型・第2文型・第3文型)

グラマーポイント

- 語順の重要性
- 英語の文型
- 第1文型
- 第2文型
- 第3文型
- 第2文型と第3文型の見分け方



英語を学ぶ上では、日本語と英語の語順の違いという必ず乗り越えなければならない壁があります。英語の初級学習者が、外国人との対話で「意味の分かる単語をつないで、後は身振り手振りでなんとなく意思疎通がはかれた。」と言うのを耳にすることがあります。単純な内容であれば、推測やジェスチャーに頼ることで何とかなるのかもしれませんが、より複雑な内容を正確に理解したり伝えたりするためには、英語の語順を頭に叩き込む必要があります。Unit 1 と Unit 2 ではまず、この語順の違いという大きな壁を切り崩しながら、次のステージへ進む土台作りをしましょう。

読んでみよう!

Hiro が以前イギリスに滞在した時、お世話になったホストファミリーの Jane と David がいよいよ来日します。Hiro は 2 人を空港で出迎えます。



Hiro: Hi, Jane, David! I'm here!

Jane: Hello, Hiro! Nice to see you again*.

Hiro: Nice to see you, too, Jane.

David: Hi, Hiro! How are you? Is everything OK?

Hiro: Yes, thank you. Both of you look great.

Jane: Oh, really? We couldn't sleep at all during the flight. Maybe we're a bit tired now.

Hiro: You must have jet lag*. It's three o'clock in the morning in England now. There's a nine-hour time difference* between England and Japan. You should sleep well tonight.

David: Yes, you're right.

Hiro: Is this your first visit to Japan?

Jane: No, we came once* 10 years ago. On our way to* Australia, we

stopped in Japan briefly* just to see* my best friend, Sarah.
David: We didn't see much of Japan then, but this time*, we have the best tour guide, Hiro.

Hiro: You can definitely* count on* me!

(注) **Nice to see you (again):** またお会いできてうれしいです。 **jet lag:** 時差ぼけ
a time difference: 時差 **once:** 一度 **on one's way to ~:** ~へ行く途中
briefly: ほんの短い間 **just to see ~:** ~に会うためだけに **this time:** 今度は
definitely: 確かに、もちろん **count on ~:** ~をあてにする、頼りにする

👂 **聴いてみよう!** 全文を聴いて、選択肢から適切な答えを選びましょう。



1. How are Jane and David feeling after the flight?

- a. They're feeling a little tired.
- b. They're feeling great.

2. What's the time difference between Japan and England?

- a. Nine hours
- b. Ten hours

3. What did Jane and David do on their way to Australia 10 years ago?

- a. They visited many places in Japan.
- b. They visited Japan briefly.

1 なぜ英語は語順が大切なのか?

まず、次の日本語を見てください。

(1) 僕はカレンに富士山の写真を見せた。

日本語の場合、次のように何通りもの言い換えが可能です。

(2) カレンに僕は富士山の写真を見せた。

(3) 富士山の写真を僕はカレンに見せた。

(4) 僕は富士山の写真をカレンに見せた。

日本語の場合、青字で示した助詞、いわゆる「て、に、を、は」が言葉に付加され、他の言葉とのかかわりを明らかにしてくれるため、言葉の語順が入れ替わっても意味が通ります。

一方英語では、語順そのものが「て、に、を、は」の役割を担っているため、語順が大切になります。(1)の日本語を英語で表すと次のようになります。

(5) I showed Karen a photo of Mt Fuji.

私は 見せた カレンに 富士山の写真を
(私はカレンに富士山の写真を見せました。)

仮に、Karen と a photo of Mt Fuji を入れ替えると、明らかに間違いに気づくでしょう。

(6) ×I showed a photo of Mt Fuji Karen.

私は見せた 富士山の写真に カレンを
(× 私は富士山の写真にカレンを見せました。)

英語の場合、**主語→動詞→～に→～を**と定まった語順のパターン(文型)に従って文が組立てられているため、語順が入れ替わることで意味の通らない文になってしまうのです。

ポイント 1

英語は語順が大事! **主語→動詞→～に→～を**

2 英語の文型

英語にはあらかじめ定まった語順のパターン(文型)が存在し、これを駆使することで意味の通ったコミュニケーションが成立します。一体いくつの文型が存在するのでしょうか? 言語学者によって意見が分かれるところですが、本書では基本となる**5文型**を学んでいきます。

文型は**S**(主語)、**V**(述語動詞)、**C**(補語)、**O**(目的語)の4つの要素で構成されます。文型とは、建物を支える大切な基礎や柱といった骨組みであると想像してください。そこにさらに肉付けするものを**修飾語(句)**と呼び、**4つの要素には含めません**。

ポイント 2

- 英語には、**5つの語順のパターン(文型)**が存在します。
- 文を構成する主な要素は**S(主語)、V(述語動詞)、C(補語)、O(目的語)**です。

3 第1文型: S + V 「Sは Vする / ～にいる」

「～は、～が」にあたる主語(S)と、その主語の動作や状態などを述べる述語動詞(V)から成ります。

(7) The machine doesn't work.

S V
機械が動かない。

(8) It is raining heavily.

S V 修飾語
雨が激しく降っている。

(9) The dog barked at the burglar*.

S V 修飾語句
犬は*泥棒に向かって吠えた。

例文で示したように、多くの場合は純粹にS + Vだけでなく、後に修飾語(句)を伴うのが一般的です。

① 注意!

第1文型には、S + Vだけでは文として成立せず、後に続く副詞句が必要となる場合もあります。

(10) The students are in the classroom.

S V 副詞句
学生たちは**教室**にいます。

×The students are. では意味を成しません。be動詞は場所を表す語句を伴って、「～にいる、～にある」という意味を表します。

(11) Stephanie lived in Himeji 30 years ago.

S V 副詞句
ステファニーは30年前**姫路**に住んでいました。

×Stephanie lived. だけでは意味を成しません。住んでいたという意味を成り立たせるには、場所を文中で明示する必要があります。

(12) I go to church on Sundays.

S V 副詞句
毎週日曜日に私は**教会**へ行きます。

×I go. だけでは意味を成しません。これもまた、どこへ行くのかを文中で明示しなければなりません。

ポイント 3

第1文型: S + V 「Sは Vする / ~にいる」

4 第2文型: S + V + C 「Sは Cである / Cになる」

第2文型は主語(S)、述語動詞(V)、そして補語(C)から成ります。補語とは、主語の様子・状態を説明する語で、名詞や形容詞がきます。

(13) I am a pilot.

S V C

私はパイロットです。

(14) My father got angry.

S V C

父は怒りました。

(15) The pupils* kept quiet in the classroom.

S V C

*児童たちは教室で静かにしていました。

(16) My sister looked very happy this morning.

S V C

妹は今朝とても幸せそうだった。

ポイント 4

● 第2文型: S + V + C 「Sは Cである / Cになる」

● 補語(C)とは、主語の様子・状態を説明する語(名詞、形容詞)。

✂ 確かめよう!

日本語の意味に合うように、()内の語(句)を並べ替えましょう。ただし、文頭にくるものも小文字で記してあります。

1. 去年沖縄に行きました。

(I, Okinawa, to, went) last year.

2. このチキンはとてもおいしい。

(chicken, good, tastes, this, very).

3. 昨日はよく眠れましたか。

(sleep, did, you, last, well) night?

6 Introduce Japan in Easy English

4. 今朝は調子がよくないみたいだったけど、もう大丈夫?

(look, didn't, this, you, well) morning. (all, are, right, you) now?

5. 私たちは海岸近くのホテルに滞在しています。

(are, a hotel, at, near, staying, we) the beach.

5 第3文型: S + V + O 「Sは Oを / Oに Vする」

第3文型は英語では最も多い文型で、主語(S)・述語動詞(V)・目的語(O)から成ります。目的語とは、ある動作(動詞)が及ぶ対象のことです。日本語の「~を」「~に」にあたり、名詞や代名詞がきます。

(17) I am studying English now.

S V O

私は今英語を勉強しています。

(18) Stuart kissed her cheek.

S V O

スチュアートは彼女の頬にキスをした。

(19) My grandfather built his house about 50 years ago.

S V O

祖父は自宅を50年前に建てました。

(20) I didn't eat breakfast this morning.

S V O

私は今朝朝食を食べませんでした。

ポイント 5

● 第3文型: S + V + O 「Sは Oを / Oに Vする」

● 目的語(O)とは、主語がある動作(動詞)を通して働きかける対象を表す語、動作の及ぶ対象のこと(名詞、代名詞)。

6 第2文型と第3文型の見分け方

次の2つの英文を見比べてください。同じ動詞を用いていますが、一方は第2文型、もう一方は第3文型です。違いが分かりますか。

(21) My son grew tall.

息子は背が高くなりました。

(22) My son grew vegetables in the garden.

息子は庭で野菜を育てていました。

答えは次のようになります。

(21)' My son grew tall.

[第2文型]

(22)' My son grew vegetables in the garden.

[第3文型]

第2文型で用いられる補語(C)は主語(S)を説明する言葉で、(21)では息子のことを背が高くなったと説明しています。したがってそこには **S=C (son=tall)** の関係が成り立ちます。一方、第3文型で用いられる目的語(O)は主語の動作が向かう対象を表しているため、(22)では、育てるという動作の対象、つまり野菜が目的語(O)ということになります。第2文型と決定的に違うのは、主語(S)と目的語(O)の間にはイコールの関係が成立しない、つまり **S≠O (son≠vegetables)** ということです。

ポイント6 第2文型と第3文型の見分け方

主語(S)と補語(C)の間にはイコールの関係が成り立つ **(S=C) → 第2文型**
主語(S)と目的語(O)の間にはイコールの関係が成り立たない **(S≠O) → 第3文型**

✕ 確かめよう!

I. 下線部が **C** (補語) か **O** (目的語) か見分けてみましょう。

1. We keep chickens.
2. Can you keep quiet, please?
3. It got dark.
4. I haven't got an email from Beth yet.
5. Do you know the artist?
6. Susan became an artist.

1. 去年仲夏:

II. 以下の英文について、それぞれ第何文型か答えましょう。

1. I feel cold.
2. Are you sure?
3. James didn't come to class this morning.
4. Do you speak English?
5. Can you speak slowly, please?

6. I know Andrew very well.
7. Betty plays the piano very well.
8. Children are playing in the garden.
9. The room remained empty for a long time.
10. Did you have a good time?

📖 表現してみよう!

読んでみよう! の会話を参考に、空欄に当てはまるセリフを考え、英語で表現してみましょう。

Mark: Hi, あなたの名前. Great to see you again.

You: _____.

How _____?

Mark: I'm all right, but a bit tired.

You: Let's go to my car. I'll take you to the hotel. You can get a good rest* there.

get a rest: 休憩する

◆ コラム ◆ “How are you?” に対する受け答え

“How are you?” は「お元気ですか。」などと訳されますが、通常は相手の体調をまじめに聞くというよりは、“Hello.” や “Hi.” の後に続く挨拶の慣用表現だと考えた方がよいでしょう。したがって、

(I'm) good / fine / OK / all right, thank you. 「元気ですよ。」

などと、返答するのが通例です。

ですが、状況によっては“How are you?” が文字通りの意味を表す場合もあります。海外で病院に行き、医師から“How are you, today?” 「今日はどうでしたか。」と聞かれて“I'm fine, thank you.” 「元気です。ありがとうございます。」と答えた日本人がいたとか。外国語を学ぶにあたって、機械的なオウム返しだけは避けたいものです。